

〈投稿のすすめ〉

「カウンセリング研究」ではカウンセリング実践の向上に貢献する論文を掲載します。奮ってご投稿ください。特に次のような論文を期待します。

1. カウンセリングの理論や技法に関する論文

カウンセリングの理論や技法はまだ発展途上にあります。特に、日本の文化に適合する理論や技法は研究の余地が大いにあると思われれます。また、様々な理論や技法を統合するものへの関心が高まっていますが、この方面の研究も期待されています。

2. カウンセリングによって援助する、人間の行動や人格および発達上の問題に関する論文

カウンセリングを通して援助する実践活動や、援助の対象となる個人や集団についての研究から、人間の行動や人格および発達上の問題の側面が明確になることがあります。カウンセリングの実践者や研究者によるこれらの研究は意義の大きいものです。

3. カウンセリングのサービスを実践するシステムやカウンセラーの制度に関する論文

日本の教育、産業、医療、福祉、矯正などの領域において、カウンセリングのサービスの必要性への認識は高まってきましたが、カウンセリングのサービスをどのように制度化していけばよいのかについては十分に明確になっていないのが実状です。サービスのシステムやカウンセラーの制度(研修、資格、勤務態勢)、そしてサービスの導入と実践に関する問題などについての研究は、社会的なニーズが大きいといえます。

4. カウンセリングについての研究に用いる、尺度、検査の開発と信頼性・妥当性に関する研究

日本のカウンセリング研究の一つの限界は、研究上使用する尺度が欧米の尺度の(日本での標準化を経っていない)翻訳であったり、研究者が一つの研究のために作成した(信頼性や妥当性の検討が十分でない)尺度であることが多いことです。尺度や検査について、測定しようとする概念の理

論的基盤、尺度の信頼性と構成概念妥当性・内容の妥当性・基準関連妥当性に関する研究に期待するところ大です。

5. ケース研究

上記の4点は、カウンセリング研究において報告する内容の普遍性を強調するものです。しかし、カウンセリングの実践には、その実践そのもののユニークさあるいは「事例性」とよぶべきものがあります。それを、ケース研究という形でまとめることにより、カウンセリングの研究に大きく貢献します。そこでは、普遍性を求める研究では見過ごされた、あるいは省略せざるを得なかったもの(例:カウンセラーの人の柄、カウンセラーとクライアントの関係の微妙な特徴)が表現できるからです。またケース研究でカウンセリングの実践を報告しながら、同時にカウンセリングに関する思い切った検討を加えることができます。言い換えれば、ケース研究は事例性を強調することによる普遍性の追求かもしれません。

〈投稿上の留意点〉

投稿される場合は次の点に留意してください。

1. 実証的論文の場合は、科学論文としての構成、方法や手続きの厳密な記述、用いた方法や手続きの厳密な記述、用いた方法や手続きの信頼性と妥当性の検討、結果の客観的分析、考察における関連研究との照合や統合、手続きやサンプルの特殊性や限界などに留意してください。

2. 実証的データを伴わない理論的研究や制度に関する論文の場合は、自分の説の一方的な陳述に偏ることのないように、自分の説を支持する理論的基盤や今までの研究成果、カウンセリングの実践、関連研究などを含めて、論文を作成してください。

3. ケース研究などケースに関する記述を含む論文の場合は、クライアントのプライバシー保護には倫理的、法的な観点から十分に責任をもって配慮してください。